

症状の説明（自我・意識・巣症状）



精神症状 「自我」

※ここでは自我を「自分自身を自分だと認識すること」と限定的に捉える。

能動（⇔受動）意識の異常

離人症：現実感がない、感情が湧かない、自分がしているという実感がない（離人神経症、解離性障害、統合失調症）

させられ（作為）体験：他者によって影響され、させられていると感じる状態（統合失調症）

※させられ思考（作為思考）、させられ感情（作為感情）、させられ行為などを含む

自我同一性意識の異常

交代人格（多重人格）：2つ以上の全く異なった人格が交代して現れる（解離性障害：解離性同一性障害）

精神症状 「意識」①

- ・意識：外界の刺激を受け入れて、自己を外界に表出する機能。特に緊急時には、意識障害の把握が重要。

- ・言葉として覚えてほしい：言葉として覚えてほしい：明識困難（一見ぼんやり）、傾眠（うとうと）、昏睡（刺激への反応なし）、意識混濁（明るさの異常）

- ・せん妄：意識混濁に錯視、幻視、幻聴などの異常感覚が加わった状態。器質疾患（外因性）が基礎にある。（日内変動）例：夜間せん妄（認知症）、振戦せん妄（アルコール離脱症：振戦・不眠・小動物幻視・不安）

精神症状 「意識」②

Japan Coma Scale (JCS) ※海外ではGCSがよく使われる。

Ⅲ. 刺激をしても覚醒しない状態 (3桁の点数で表現)
(deep coma、coma、semicoma)

300. 痛み刺激に全く反応しない

200. 痛み刺激で少し手足を動かしたり顔をしかめる

100. 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする

Ⅱ. 刺激すると覚醒する状態 (2桁の点数で表現)

(stupor、lethargy、hypersomnia、somnia、drowsiness)

30. 痛み刺激を加えつつ呼びかけを繰り返すと辛うじて開眼する

20. 大きな声または体を揺さぶることにより開眼する

10. 普通の呼びかけで容易に開眼する

Ⅰ. 刺激しないでも覚醒している状態 (1桁の点数で表現)

(delirium、confusion、senselessness)

3. 自分の名前、生年月日が言えない

2. 見当識障害がある

1. 意識清明とは言えない

注 R : Restlessness (不穏) 、 I : Incontinence (失禁) 、 A : Apallic stateまたはAkinetic mutism

たとえば 30Rまたは 30 不穏とか、20Iまたは 20 失禁として表す。

精神症状 「巣症状」①

失語：後天的な脳の限局病巣に由来する言語の表出と了解の障害

* 運動失語（Brocaブローカ失語）：優位半球前頭葉障害、言語理解可能、自発言語不可

* 感覚失語（Wernickeウェルニッケ失語）：優位半球側頭葉障害、言語理解不可、自発言語可能（多弁で理解困難）

失認：大脳の限局性病変に由来する、熟知しているはずの感覚像を認識する能力の障害

→「知っているはずのことが分からない」相貌失認 道具失認

失行：一定の目的運動が正しく遂行できない状態 例：ADAS
(アルツハイマー病の認知症検査の手紙)

精神症状 「巣症状」②

前頭葉症候群：自発性低下、性格変化（モリアニミダシ症）、Broca失語（Pick病、脳腫瘍、脳血管障害）

側頭葉症候群：記憶障害（海馬の障害／萎縮）、性格変化（粘着性、爆発性）、Wernicke失語（FTLD前頭側頭葉型認知症、脳腫瘍、脳炎）

* 側頭葉てんかん：側頭葉に焦点をもち、精神運動発作ともいう（幻聴、幻味、幻臭、夢幻様体験）

頭頂葉症候群：知覚障害、失行・失認・失語（アルツハイマー病は全般的に萎縮する、Gerstmannゲルストマン症候群）

* Gerstmann（ゲルストマン症候群）症候群：手指失認、左右障害、失書・失読・失算

後頭葉症候群：視覚障害、幻視

講義は以上で終了です。おつかれさまでした。

症状の説明（自我・意識・巣症状）

